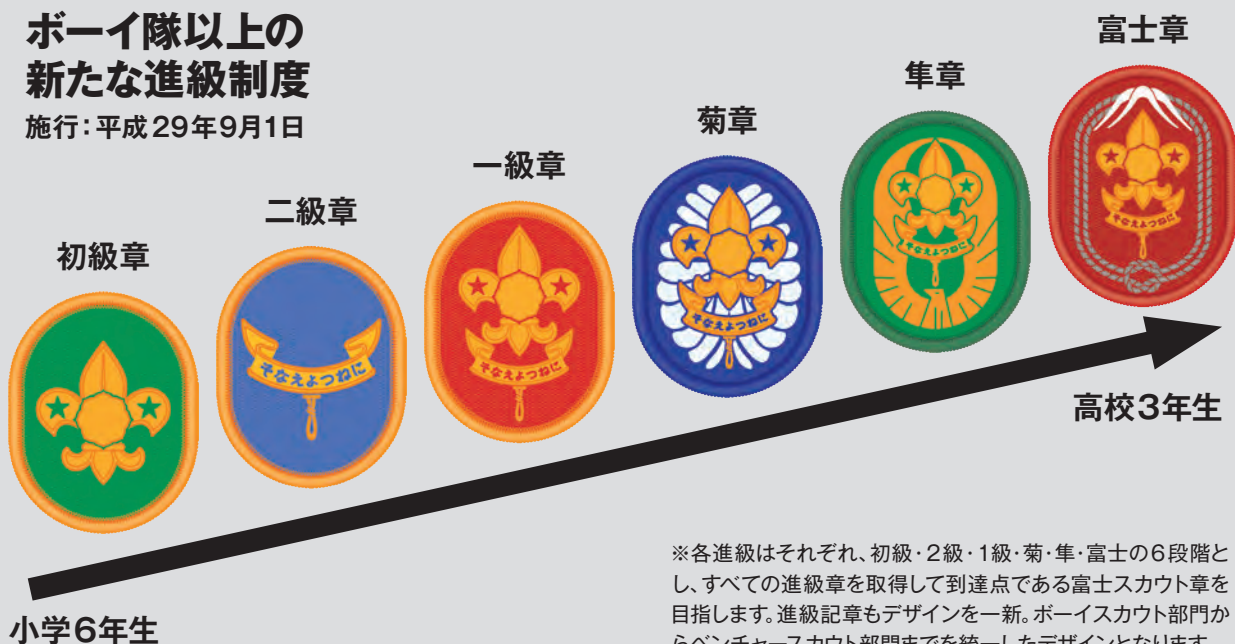




団だより

ボーイ隊以上の 新たな進級制度

施行：平成29年9月1日



よきハイカー・よきキャンパーたれ

団委員長 當麻洋一

平成29年度から、ボーイ部門とベンチャー部門の進級課程が大きく変わります。

これまでは、極端な例としてボーイ隊を「初級章」で終えたスカウトでも、ベンチャー隊上進後は一足飛びに「ベンチャー章」「隼章」を経て、スカウトの最高峰である「富士章」にチャレンジすることが出来ました。しかしこれからは、改めて「二級章」「一級章」「菊章」と段階を踏んで修得し、より上級の進級章を目指して行くことになります。

その主眼は、ボーイからベンチャーまで、即ち小学校6年生から高校3年生までの進歩の一貫性をより高めること。そして、スカウト活動の根幹である「野外活動」のスキルをきちんと身に付けることにあります。

楽しく仲間と遊び互いに助け合うことを、カブスカウトまでの活動で経験したス

カウトたちは、ボーイ隊上進後「初級章」でスカウトとしての基本を学び、「二級章」では「ハイキング」を、「一級章」では「キャンピング」をしっかりと計画・実行できることを目指します。大自然の中で楽しく安全にハイキングやキャンプを行うためには、心身の健康と、野外活動の基礎的なスキルがきちんと養われていなければならないことは、云うまでもありません。

この過程を通じて身に付けた経験とスキルは、ベンチャー隊で更に高度な活動を「プロジェクト」として主体的に実行する力に繋がり、やがては、他の人々や社会に対してしっかりと「奉仕」することのできる「人間としての成長」に結びついていきます。

つまり、「よきハイカー」「よきキャンパー」を目指して活動することは、子供たちが自らの「人格」「健康」「技能」を修養し、よき社会人として有為な人間力を育

んで行く道筋の大切な入口なのです。極言すれば、このプロセスを欠いた活動はスカウティングではない、とすら云えるでしょう。

学校教育においては、中高一貫課程のメリットがより強く認識されて来ましたが、100年を超えて青少年期の「一貫教育」を実践してきたスカウト運動でも、改めて「積み重ね」や「累進的進歩」の重視、そして「野外を教場」とするスカウティングの原点に立ち返ることで、その教育的効果を具体的に高めることを目指しています。

野山の彩りが鮮やかに改まる季節、本団の活動も新しいスタートを迎えます。安心・安全を旨としつつもスカウトたちの冒険心を満たし、心身ともに大きく成長することに通じるダイナミックで楽しい野外活動・プログラムが展開できるよう、団の関わる成人もまた、しっかりと研鑽を重ねて行きたいものです。

BVS

ビーバー隊

活動を振り返って



またお泊りキャンプに行って、
キャンプファイヤーを
やりたいです。

尾藤 えいた

鎌倉のハイキングが
一番好きでした。
今度はキャンプ
楽しみです。

森 しゅんすけ

手作りのしゃぼん玉のおもちやが
とてもきれいだった。

清井 しょうた

ぼくはBP祭の
キャンプファイヤーが
楽しかったです。
知らない歌や遊びを
いっぱい知れて
楽しかったです。

西條 しょうご

一番楽しかったのは、
おもちゃつき。

大久保 たける

忍者ごっこが楽しかった。

新田 ひろゆき

活動の進め方がスカウトを惹きつけているかどうか、特に気にしながらの一年でした。活動の主役であるスカウトの気持ちを『発表』という形で聞いたり、質問意見のやり取りをなるべく入れたり……。今年度も保護者の皆さんのご協力により安全に活動できたこと、また、副長をはじめ関係者の方々へ深く感謝します。

隊長 守田 智恵

天気にも恵まれ楽しめる活動でした。何よりも『笑顔』が溢れる瞬間が最高でした。

副長 中村 園子

BP祭に併せて行った「団営火」は、団としての一体感を味わいながら、純粋にファイヤプログラムを楽しむことが出来、とても有意義でした。ビーバースカウト達には、これから多くの愉しさを知っていつて貰いたいと、改めて感じられた活動でした。

副長 福村 吾朗

CS

カブ隊

夏キャンプに参加して

■期日：2016年8月5日(金)～7日(日)
■場所：YMCA 三浦ふれあいの村



夏のキャンプの思い出

一組 高田 廉

一日目の夜にやったキャンプファイヤーの出しものでは、それぞれの組が工夫して劇と組の歌をやりました。ぼくたち一組は劇で桃太郎をやりました。二人休んでしまったため、いろいろな人に手伝ってもらいました。初めて劇をやるうさぎたちは頑張ってくれました。

また、組の歌では、みんなが話し合って元気の出る歌を考えました。みんなで協力したのでたのしかったです。

二日目は、隊でカレーを作りました。マッチのつけ方を学んで、ロウソクや、まきに火をつけました。その火でカレーを作ってみんなでおいしく食べました。最後に「へび玉」という花火で遊びました。不思議な形をしていておもしろかったです。三日目は、海にいきました。シーグラスや、砂から砂鉄をとりました。夢中になって取

っていたら袋いっぱいになっていました。最後のキャンプだったけれど、ものすごくおもしろかったです。

いろいろあったキャンプ

一組 足田 翔也

カブたいのキャンプは、楽しいことがいっぱいありました。こんなにたくさんのプログラムがあったのは、はじめてでした。

一日目は、電車にのってキャンプ場の形を覚えていなかったの、ここだと着いた時は思いました。

二日目は、アカテガニが一番楽しかったです。グルグルとさんらんの時にはしていたので面白かったです。ぼくの友だちもかんさつに来ていました。

三日目は、いそ遊びが楽しかったです。たぶん二十種類いじょうはかいを見つけてました。

ふり返って見るといろんなことがありました。楽しいこともいっぱいありました。キャンプは楽しかったです。

キャンプの思い出

一組 中垣 賢幸

ぼくは、一日目で、楽しかったことは、げきです。げきで、ぼくはナレーターをしました。ナレーターで、読むところが、いっぱいあってたいへんでした。タイトルは、ももたろうです。

二日目は、へび玉です。ぼくは、やろうと思ったけど、マッチがこわくてつけられなかったから、ほかの人につけてもらってにょうにょ長くなってへんなところに入ったから楽しかったです。

三日目は、磯遊びです。シーグラスや、すごい形のかいがらとか、いいものをついてみつけたので、たのしかったです。

小さくてかわいい アカテガニ

二組 井上 留美音

キャンプの2日目の15時20分に出発して、アカテガニが見れる小網代(こあじろ)の森に行きました。その日の目的は、アカテガニの出産です。

アカテガニは、一回に四万個から五万个産むなんてはじめて知りました。ダンスをおどっているようにぶるぶると動いて子どもを産むところが、面白かったです。それに「さすが!一回に四万個〜五万个」と思うくらい産むといっしゅん真っ白になるので、びっくりしました。もっとびっくりしたことがあります。それは、36〜45万個(九匹のお母さんが産んだ数)その中からたったの二匹しか、ちゃんとしたカニ(お母さんガニ)にならないということです。

いままでのカブのキャンプの中でいちばんいろいろなこと(へび玉をやったり、ロープで遊んだり)をして、いちばん楽しかったです。

アカテガニ、かわいかったです。

生命誕生の瞬間 〜赤手ガニ〜

二組 波多野 雅

キャンプ初日に用事があり、途中からの参加になるので最初は不安だった。でも、隊長やみんながあたたく迎えてくれたので、不安は一瞬にして吹き飛んだし、楽しみにしてたキャンプファイヤーにも間に合ったので嬉しかった。ゲームや出し物をして、とても楽しい時間を過ごした。

今回のキャンプで僕が一番印象に残っていることは、赤手ガニの産卵を観察したことだ。全身を震わせて、白い煙のようなものをだし、それが卵だと知り、小ささにとても驚いた。初めて見た産卵の様子は、生命の誕生の瞬間だと思うと神秘的な感じがした。

他にも楽しいことだらけで、あっという間の3日間だった。次のキャンプはもっと長い日数にしたい。

CS



みんな元気だ カブスカウト

二組 鎌田 琥太郎

一日目は、夜にキャンプファイヤーをしました。さいしょに火の神ができました。

そして、一組、二組、三組のじゅんで、げきをしました。一組は「ももたろう」、二組は「三びきの子ぶた」、三組は「うらしまたろう」でした。二組のげきでは、オオカミやくでした。えんとつに入ったとき、みんなは、ぼくしょうしていました。楽しかったです。

二日目は、夕がたから夜までアカテガニかんさつをしました。カニがいっぱいできて、あさい海でさんらんしていました。その所が面白かったです。

三日目は、海で、さ鉄をくっつけたり、貝がらを見たりしました。さ鉄がくっつくのが面白かったです。らい年はいっぱい生き物をかんさつしたいです。

キャンプの思い出

二組 中村 建二郎

8月5日に、ぼくは、カブたいになってはじめてのキャンプに行きました。去年は、ビーバーたいだったので、お母さんがいて心配はなかったけど今年のキャンプは、家族がいなくて、すごくふあんでした。しゅうごう場所についてデンリ

ーダーにアカテガニを調べた事を話したら、ほめてくれました。

キャンプ場のみうらには、電車とバスとあるきで行きました。さいしょに自分が使うへやに名前をつけました。名前は、「スターセブン」にしました。夜になってキャンプファイヤーをしました。次の日の夜にはアカテガニを見にきました。たまごをはなっている時、おぼれてるようでおも白かったです。三日目は、帰るじゅんぴをしました。帰る前に海にいて、かいがらやシーグラスをひろいました。ぶじに家に帰ってこれました。行く前はちょっとふあんだっただけキャンプファイヤーやアカテガニのかんさつなどいろいろあって楽しかったです。

キャンプの感想

二組 若井 汰樹

カブのキャンプはいい思い出になったと思います。

1日目は鉄道に乗ってキャンプをするところに行きました(三浦ふれあいの村)。自分の組の部屋の題名を決めました。僕は2組なのでスター7とつけました。あとキャンプファイヤーの劇は案外緊張しなかったです。

2日目は1番楽しかったのはアカテガニの観察ですアカテガニの観察は夜遅くに行ったイベントなのでとても眠かつ



楽しかったキャンプ

三組 岩澤 良真

たです、でもアカテガニを見れてよかったです。不思議に思うのがアカテガニというのに全然赤く見えなかったことです。

3日目は磯観察をしました。砂鉄とりが楽しかったです、最後はまた鉄道で帰りました。自分的にはアカテガニの観察やキャンプファイヤーが1番楽しかったです。そして前の活動(キャンプの荷物点検)のおかげで忘れ物はしませんでした。あと2回キャンプがあるので来年再来年も頑張りたいと思います。

楽しかったキャンプ

三組 大磯 りょう

1日目で十時ぐらいに電車に乗った時、2年前にきたからどんな味かわすれてたけれど、その日の夕食のときに前より味がおいくなったな〜と、思った。

2日目で、前の日に午前1時にねて、午前4時1分におきたから、赤手ガニの観察のときにねむくなってしまったけど、赤手ガニが変な卵の産み方をしていたから、おもしろくなってねむけがとれて楽しめてよかったと思う。

とうとう家に帰る3日目に海へ行ってカニがいるかなと思って探したら岩の上で死んだばかりの、すごく大きな赤手ガニの死体があったから暑すぎて、死んでしまったんだなと思った。でも色々な事があって楽しいキャンプでよかった。

ークをしました。すべてできたのでとてもうれしかったです。そのあと部屋にもどってウノをしてカレーを作りに行きました。火をもやすのは、隊長たちにやってもらって自分たちは、マッチに火を付けたり火をたいたりしました。野外で作ったカレーは、おいしかったです。そのあと部屋にもどって、バスに2回乗りかえてこあじろの森に行ってべんとうを食べました。ぎりぎり食べれました。そのあと赤てガニのさんらんを見に行きました。たまごは、すなみたいで、0.3mmときいてびっくりしました。さんらんする時は、体を上下にふってたまごをさんらんします。そのあとバスに乗って宿まで帰ってきんきんの牛乳のんでおふろに入って、組長次長会をやっ

てねました。
今日は、朝5時15分に起きてトイレをして、今日のじゅんぴをしました。6時45分にラジオ体そうをして、ごはんを食べました。そのあとへやにかえて、にもつせい理をしてセレモニーをして海に行って、貝ひろいをしました。ぼくは、さ鉄をいっぱいひろいました。帰る時、スポーツドリンクをもらって、のんでへやへ行って昼ごはんを食べて、キャンプ場の人たちにさよならをして、バスでいに行きました。電車で大ふなまで行って、セレモニーをしてかいさんしました。そのあときがえなどを洗ってもらってキャンプが終わりました。

楽しかったキャンプ

三組 びとう しゅんた

キャンプでぼくが楽しかったことは、三つあります。

一つ目は、夜、キャンプファイヤーをしたことです。なぜならいろんなげき、歌をきいたり見たりできたからです。

二つ目は、アカテガニの、さんらんを見た事です。アカテガニのさんらんを見たのは、はじめてでした。たまごの中では、もうゾエアがそだっているなんてはじめて知りました。

三つ目は、Yシャツチームのみんなでウノをした事です。みんなでやると、組長がだいたい一番にあがります。いじわるをしたり、チームプレイでだれかをやっつけたりして楽しかったです。

はしゃぎすぎてよる4時間しかねむれませんでした。二組が夜うるさかったです。

楽しいカブキャンプ

三組 **今井 洸太**

カブキャンプで大へんだったことは、スタンプのれんしゅうです。

三組のスタンプはうらしまろうです。ぼくがつくった小道具はカメのこうらで、工夫したのは、こうらにダンボールをベルトみたいにつけたことです。ぼくは、カメやくだったので、れんしゅうの時にいじめられているシーンで、ダンボールのけんでたたかれたり、コショコショされたいへんでした。うらしまろうにほんとうにのられたりしてすごくおもしろかった。手とひざがまっくろになりました。キャンプファイヤーの時、りゅうぐうじょうの帰りののせることをきいていなくて、三組らしくておもしろいと思いました。キャンプファイヤーのまわりでチェッコリやハイジをおどりながらうたったりしてはじめはの

りきではなかったがけっこう楽しかった。

二日目の夜は小あ代の森でアカテガニかんさつをしました。新月の夜、まんちょうの時に森にすんでいるカニが海にたまごを生みに来ます。はまでまっているとカニがびっくりして生まなくなるから海の中でライトをけて、まつ。カニがたまごを生む時はブルブルしてたまごを海にながします。海の中に入ったしゅんかんにゾエアになります。いっぱい生むところを見れてよかった。めずらしいので、みれておもしろいと思った。

キャンプは楽しいのでまた行きたいです。

キャンプの思い出

三組 **野場 遼太郎**

ぼくは8月5日～7日までボーイスカウトのキャンプ(三浦ふれあいの村)とい

う所に行ってきました。

二日目の夜に、こあじろという森に行って、アカテガニのさんらんを見ました。ピーク(見られる時)は7時5分～7時10分と言っていました。しっかり見られました。さんらんのしかたは、波がきたとき体をブルブルっとふるわせてさんらんをします。さんらんの数はだいたい20ぴきぐらいもありました。1回にたまごを2～3万こも生むのだと紙しばいで聞かせてくれました。アカテガニのたまごの色は茶色でした。さいご(アカテガニのさんらんを見おわったとき)にかかりいんの人たまごをけんぴきょうで見せてくれました。クラゲも、さいごけんぴきょうではありませんが見せてくれました。二ひきどうじにさんらんするときに何回かあったので、見るのもせいっぱいでした。

1年の活動を振り返って

カブ隊活動の感想

一組 **作山 耕平**

ぼくはこの3年間カブ隊で活動していたよかったことが3つあります。

1つめはロープ結びです。この3年間で本結びを始めとしたいろんな結び方を教わりました。最初はと中で意味がわからなくなってほじめてしまったこともあるけど、今ではそんな結び方も簡単にできるようになりました。中でもやり結びが一番好きでした。はじめてこの結び方を聞いた時とても特別なかんじがすぐにおぼえたくまりました。なにより、ぜったいほじけないという所が好きになった理由でした。生活の中でこは使えたのでこれからは全部つかえるようになりたいです。

2つめは礼儀です。カブ隊はバス、電車を活用することが多かったためおとし

よりなどに席をゆずるなどの礼儀が必要になりました。うさぎの時はゆずるのがいやだったけど今でしっかりゆずることができるようになりました。こんなに礼儀が学べることはないのでこの礼儀を大切にしたいです。

3つめはいろいろな体験ができたことです。ぼくがうさぎの時のキャンプではカヌーが体験できました。くま時はいろんなとこにいけたし、いろんなことが体験できました。ラグビーができました。東京都にもいけました。本当に感謝です。

これまで、隊長、副長、デンリーダーありがとうございました。ボーイになってもがんばります。

カブ隊活動の感想

一組 **佐野 寿弥**

ぼくがカブスカウトでいちばんいんしゅうのこったことは、BP祭のキャンプファイヤーです。

その中でとくに心にのこっていることは、1ばんのみんなで「こいダンス」を、おどったことです。

本番の前に、ダンスのサビの部分を1

ばんのみんなに教えたり、歌を、練習したりして、本番では「こいダンス」は大せいこうしました。

「こいダンス」をおどる前は、きんちょうしたけど、せいこうして、ほっとしました。

なぜならば、すごくはずかしいのもあったし、みんなの前でおどるから、どきどきしたからです。

これからもBP祭があるんだと思うと、これからのBP祭が、楽しみになってきました。これからもカブスカウトをがんばっていききたいと思います。

カブ隊の思い出

一組 **大久保 勇作**

僕はカブ隊で1年間を過ごし、とても楽しく良い経験になりました。

一番心に残っている活動は、大船まつりでの仮装パレードです。自分で仮装の衣装を作り着られて大満足でしたし、他の人の衣装も見られて心から楽しめました。

2年目も自分なりに頑張っておもしろい活動したいです。

from LEADERS

カブスカウト活動に魅せられて

カブ隊長 **山内 政敏**

2001年9月から鎌倉7団にてカブ隊長となり15年が経過。5団では4年目となります。私はスカウト経験なしですが、小学生の頃は、田んぼ・畑に囲まれて、暗くなるまで、外で仲間たちといろいろな冒険をしながら楽しく遊んでおりました。その外遊びの楽しさを今のスカウト達に少しでも体験させてあげられたらとの思いでここまで続けてきました。

鎌倉の素晴らしい環境の中で、外遊びの楽しさを感じたスカウト達の輝いた目を見るととても嬉しくなります。

テレビゲームにはじまりネットの普及と外遊びが安心してできない状況の中、スカウト達がのびのびと実体験を通して学び、ワクワクできる時間と場所の提供ができるよう微力ではございますが、今後も尽力してまいりたいと思います。

備えよ常に

カブ副長 **若井 順一**

BSのスローガン、人の役に立てるように「備えよ常に」(「心の備え」「体の備え」「技の備え」)をキャンプで実践でき

たかと思います。またその為に各関係者が事前準備、実施中の日々確認、後日のふり返りなど実に時間をかけて行なっていることを参加して初めてわかりました(ご苦労様でした)。ただ遊ぶだけのキャンプではなく成長のためのプログラムなのですね。

■貴重なアカテガニの産卵見学のために安全な歩き、海への侵入、暗闇での静寂に耐える、注意事項を守る、夜の行進、疲れにまけない

■ロープ実習で

人命救助技術の習得、課題に対処する考え、チーム、他への教え

■野外食事

火起こし、注意、災害意識

■海

砂鉄、磁石の知識、安全、水分補給

カブ隊デンリーダーを終えて

1組デンリーダー **今井 朝子**

カブに上進しデンリーダーになった時には息子以上に緊張ととまどいがありました。

だんだんカブにも慣れ、キャンプを過ごした頃にはスカウトとの距離がグンと近くなり、毎回の活動がおもしろく、スカウ

トとの交流を楽しみました。

特に同じ組の子は、毎回キラキラした目で一生懸命に話しかけてくれ、まるでわが子のような様子でした。この時期は、くまスカウトの上進を喜ぶとともに寂しさも感じてきました。1年間の子どもの成長を目の前で見ることができ、体感できる貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

カブ隊デンリーダーを終えて

3組デンリーダー **鎌田 啓江**

とても心に残っている思い出は、キャンプ3日目の朝に4時半からスカウトが起き出してみんなでウノをしていた事、湘南地区ラリーで賭けをするとポイントが上がるゲームでチーム団結して盛り上がった事、キャンプファイヤーの出し物を自分たちで考え作り上げていた事です。スカウトたち個々に秘めた個性とパワーは素晴らしく、子供の主体性に任せるのが一番面白い事だと分かり、自然と自分も楽しむことができました。1年間デンリーダーをやらせて頂き、団員・隊長・副長および子供たちから様々な事を教わりました。本当にありがとうございました。



SS

ボーイ隊 2016・夏



第5回北海道・東ブロック野営大会 参加レポート

■期日：2016年7月28日(木)～8月1日(月)

■場所：福島県耶麻郡猪苗代町天神浜



他の団・地域のスカウトとの交流

ブレイブボーイ班 班長 高田 愛麻

私はこの夏、班長として「第5回北海道東北ブロック野営大会」に参加した。今回楽しみにしていたのは、他の県、団との交流だった。湘南地区の間はもちろん、北海道や東北のスカウトと交流できることは滅多にないので、とても楽しかった。

友情ゲームでは、初日の開会式で神奈川県代表の旗手をしたためか、私の事を知ってくれた他県のスカウトがいて、とてもうれしかった。惜しくも7県で集まることはできなかったが、名刺をもらえたりしてとても満足だった。

夜に宮城のスカウトとおこなった「交歓会」では、お互いにゲームをやったり、物々交換で記念の物を手に入れた。宮城のスカウトの一発芸がとても面白かった。

今回は班長としての夏キャンプで気合も入っていたが、福島で東北、北海道のスカウト仲間と交流することは人生で貴重な経験となった。今度はジャンボリーで色々な地域のスカウトと交流したいと思うようになったので、これが私の次の目標だ。



キャンボリーで学んだこと ブレイブボーイ班 野口 矢真人

私は、今回のキャンボリーで、大まかにわけて2つの体験ができました。

一つは、班長という体験です。キャンボリーの後半、自分は、班長代行をまかされました。そこで学んだのは、班長は、指示をしなければいけないということ。また、指示を出しながら、自分の作業もこなさなければならない、ということ。班長は、ただ、班をまとめるだけでなく、指示を出すということも重要だということを今回、学びました。

もう一つは、友情、です。キャンボリーでは、バス内から、逗子一団と仲が良くなりました。また、プログラムの友情ゲームでも、見つけた相手とすぐなかよくなり、ということで、他の団や隊などと自然に仲が良くなるこれはすごいことでもあり、あたりまえのことでもあるんじゃないか。自分は、そう思いました。いい体験ができたと思います。

今回のキャンボリーは、この2つだけではなく、まだまだ、学べることがたくさんありました。ツリーイングやカヌーなど、

貴重な体験もありました。でも一番のおどろきは、キャンボリーにかなりの数のスカウトが、参加したことです。このことで、ボーイスカウトという団体がとても大きいそして広く行われていることが、よくわかりました。

友情ゲームなどでは、さまざまな物々交換をしました。そこでは青森の物や北海道の物など、その県ならではの交換品がありました。そんなところもキャンボリーの良い所ではないかと、自分は強く思いました。

アドバイス

ブレイブボーイ班 小谷 理清

私は、5HTCのような、長期のキャンプは、初めてでした。だから、わからない事、出来ない事がたくさんあって、とても、不安でした。けれども、班長さんや、他の団の人、隊長や副長が、いろいろアドバイスをくださりました。しかし、私は、そのアドバイスを実行せずに、まだ一年目だから、出来なくていいやと、思っていました。なぜなら、火はおこせないし、ロープ結びもできない、アドバイスを聞いたって、どうせ出来ない。と思いこんでいた

からです。ここで私が、反省しなければならないのは、出来ない、出来ない、と思いこんでいたり、せっかく、アドバイスをもらっているのに実行しないことです。

その事に気付いたのは、火おこしでのことでした。私たちは、火がつくのが遅く、いっつも、隣の団のほうが、早く火がついていました。だから、私は、どうしてそんなに火がつくのかと、聞いてみました。すると、まず、細い木に火をつけて、どんどん太い木に火を移していくと、答えてくれました。でも、私は、その事をしませんでした。しかしふと、私たちの、立かまどを見ると、太い木に火をつけようとしていました。私が、なぜ、その事を、しってたのかという、副長が、教えてくれていたからです。だから、アドバイスを聞いたって、どうせ出来ない、と思いこんでいた事に気付きました。

私は、この事から、人のアドバイスは、ちゃんと聞いて、実行しよう。今度は、私が、アドバイス出来るようになる。と私は反省しました。そして、この反省を、今後のスカウト活動に、生かして、いきたいと思っています。

大切なもの

ハヤブサ班 班長 **宮井 駿岳**

5HTCとは、どのよのうなものなのか？ ジャンボリーに行ったことのない僕にとって他の多くの団と供にキャンプをするということは、未知の世界でした。

ましてや、前回の逗子1団とのキャンプのアイスブレイクに参加していなかった僕は、ほとんど、鎌倉5団以外には、知り合いのいない状態で参加することとなりました。

しかし、実際に5HTCに参加してみると自然とまわりの団の人たちといろいろな話をしたり共通の趣味を見つけ出したりすることによって、知り合いを増やして行きました。

特に逗子1団の人達とは、仲良くなり自分の学校などの話をしました。

また、このキャンプでは、普段は体験できないような事を体験できました。特に、ツリークライミングは、思っていたものよりも、本格的でとても楽しかったので、またやりたいと思いました。

さらに、自由選択プログラムでは、逗子1団の人と供に共同作業で太陽光によって料理ができる道具を完成させました。

このように、今回の5HTCでは、大会提供プログラムや自由選択プログラムなどのプログラムでの貴重な体験も、もちろん、自分の中での大切な経験になり、さらに、知らない団や知らない連盟のスカウトと供に、活動や食事をしたこともとても貴重な体験になったと思っています。

これらのことから、やはり仲間をつくることは、大切だということが、よく分かりました。これからは、自分の班の班員とも協調し、活動をしながらも、他の団のスカウトとの交流をもっと深め、たくさんのスカウト仲間をつくり、そのスカウトたちとまた、この5HTCのような、プログラムの活動をするのが、できたらいいなと心から思っています。

また、この5HTCで仲良くなった隊とも再び活動をしたいです。

SS

ボーイ隊2016・夏

5HTCは ありがとう

ハヤブサ班 **中村 甲一朗**

今回のキャンプは、今までと違い、他県のスカウトとのキャンプだった。今回のキャンプは参加できて良かったと思います。また、今回のキャンプで良かった事・楽しかった事、つらい事・悲しかった事、課題もできた。

まず、良かった事・楽しかった事は、プログラムや他県のスカウトとの交流。プログラムは、とても楽しくなるものばかり用意されていてすべてが楽しかった。特にプログラムの中でもコピーライブのようなものが一番盛り上がった。知っている曲もいくつかあったり、楽しかった。また、他県のスカウトとの交流は友情ゲームから始まり、隊訪問などで交流する時間があり、いろんな人と交流が出来たし、おもしろい人や周りを明るくする人がいた。

次はつらい事・悲しい事は、幸いなことに団の中だけで済んだ。遊んでばかりいて、仕事を手伝ってくれなかったり、隊訪問の時も、2つに分かれ前半後半に分かれた。帰ってみると、鎌倉のサイトには客がおらず、逗子のサイトには、客がいて逗子が接客しているのに対し、鎌倉は接客がゼロで遊んでいるのが悲しかった。

今回の課題は、2つあります。一つ目は、今回の5HTCでのつらい事・悲しい

事が起きたことをチャンスだと考えて、次のキャンプなどで、良かった事・楽しかった事の方に入るようにする事。もしも、出来るなら、さらに一歩進みたいです。そのために、「自分は悪くない」ではなく相手の気持ちを理解する事が大切だと思いました。さらに、相手の気持ちを理解できるようになる事は、ふだんの生活でも出来ると思いました。ただまだ、どのように理解できるのかは、今のぼくには分からない事もあるので今後の活動で見つけられればいいなと思います。そして2つ目は良かった事・楽しかった事の他県のスカウトとの交流では、今回自分から声をかける事が出来なかった。だから次の他の団との交流の際は、自分から声をかけてみて、友達・友情を自分でつくりたいです。そのために、日常で常に人にふれあったり、話をしたりする事も大切だなと感じました。

今回のキャンプでは、この3つ、良かった事・楽しかった事、つらかった事・悲しかった事そして、課題の事を学んで、考えることが出来ました。この第5回北海道東北ブロックを支えてくれた人々や、この回の運営をして下さったリーダーたちに感謝したいと思いました。理由は、今回のキャンプにより、他県の友達が出来たり、楽しいプログラムがあったりしたので、絶対にこのキャンプを忘れられないなと思ったからです。



友達の大切さ

ハヤブサ班 **小谷 優清**

僕が、5HTCから持ち帰ったと思うものは、友情の大切さだと思う。

キャンプの二日目あたりから、班が分裂してしまいました。一回はもとにもどったけれど、班としてまとまれるような空気ではなく相手の悪口を言いあっていて、毎日のすごく雰囲気が悪くて、形だけの班でした。

最終日には雨がたくさん降り、テントや食堂フライをしまうのはとても困難でした。

しかし、僕は藤沢19団のスカウト達を見ると、一人一人が自分の仕事が終わると、他のスカウトの手伝いをしているのを見て、これがスカウトのおきて、「スカウトは友情にあつい」なんだなとはじめて実感しました。

そして、今回のキャンプで、僕達にたりなかった物は何だろう、どうして分裂したんだろうと考えた時に、僕たちには、友情というものが存在していなかったということに気づき友情の大切さを知る事ができました。でも、僕達には、友情以外にも、親切、快活、感謝の三つもできていなかったと思う。これらができてこそ、一流のボーイスカウトになれると僕は思っている。

そして、僕は、今後スカウト活動には班員皆が、すべての人を友とし、相手の立

場にや、考えを尊重し、思いやりのある人になる事を目標に、僕も他のスカウトと一緒に頑張っていきたいと思う。

そして、今までの事を、しっかりわかりあい、今後のスカウト活動を有意義なものに出来たらいいなと思う。

それがたとえ無理であっても、鎌倉第5団ボーイスカウト隊として胸をはれるような、スカウトを目指して、スカウトのちかいとスカウトのおきてをしっかりと守り、人の役にたてる、そんなボーイスカウトに、僕はなりたいと思っている。

そして、僕は今までのミスをなくし、これからのスカウト活動に取りくんできたい。

今年のキャンプを振り返って

ハヤブサ班 **下田 恭平**

僕は、今年のキャンプで新しいロープの技術や竹で作れるスタードームの作り方や友達が出来ました。

でも、僕は、みんなの信頼関係を無くしてしまいました。

信頼関係は、簡単には取り戻すことは出来ません。

僕は、今後の活動では、信頼関係を取り戻すために、出来るだけ班員の役に立つように活動一日一日を一生懸命に今後の活動に取り組みたいです。



VS

準章取得を通じて得たもの

ベンチャー隊 木村海生

私が準章取得を通じて得たものが二つある。

一つ目は企画・実行力である。私は入隊一年目にメンバー全員が興味を持っていた「食」をテーマに歴代の先輩方が行ったことのない活動を意識し、香川でうどん作りの修行を企画し、計画に移した。このとき夜行バスやキャンプ場予約、活動場所周辺の情報収集をしたがミスもあり、活動中にあたふたすることがあった。このことは私のこれからの活

動の大きな改善点となった。そして二年後の丹沢行者道一人ハイキングのプロジェクト。香川の探検旅行の失敗に注意し、装備やルート、予定の確認を入念にした。それにこの活動は丹沢と行者の関係に触れ、ただ山を歩くのではなくその行者道を歩くということを実践しそのために行者関連の本を読み、その著者に会って実際に話を聞いてルートを決めたとすることで、プロジェクトに大きな工夫を取り入れ、完成度を高めた。

このように私は企画や実行の経験を重ね、失敗や苦難を乗り越え、より完成度の高く、興味深い活動ができるようになった。

二つ目は指導力である。ベンチャースカウトに上進し、上級班長となってボーイ隊の活動に積極的に参加し、リーダーたちから上級班長としての行動をアドバイスしてもらい、ボーイ隊のスカウトの手本となるように心がけ、頼られる



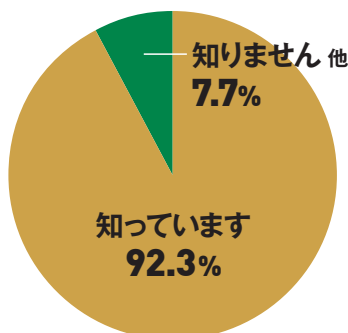
存在になれるよう努力した。始めのほうは私のスキルが未熟で教えることがほとんどできず苦勞したが、回数を重ねることで慣れていき、設営・撤営時にどこをどうしたら効率が良くなるか等を教えることができるようになった。

私はこれからローバースカウトになり、ベンチャースカウトのころよりも奉仕活動をする機会が増えるため、今までお世話になった鎌倉5団に少しでも貢献できるよう頑張りたい。また、ボーイ隊はもちろん、カブ、ビーバー隊の後輩全員にスカウト活動の楽しさを教えてあげられるような企画を考え実行していきたいと思う。

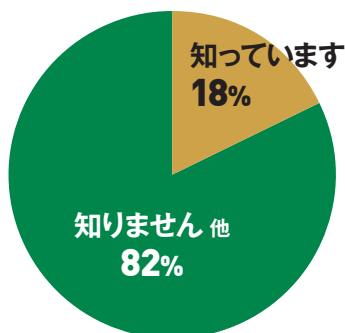


ボーイスカウトはみんなが知ってる「なぜ」の団体

Q ボーイスカウトってご存じですか？



Q 活動内容をご存じですか？



左のアンケートは、ボーイスカウト日本連盟が発行している『スカウティング』2017年3月号に掲載されていたアンケートの結果です。一般の人の9割以上にボーイスカウトの存在は知られていますが、8割以上の人は何をしているのかわからない、ということが明らかになっています。

この結果を踏まえ、ボーイスカウト日本連盟ではようやくPR戦略の策定に動き出したようです。戦略の参考にするべく、現在ホームページで保護者アンケートを実施していますが、ご存知の通り、最も効果的なPR戦略は「口コミ」です。それもネットに氾濫しているようなヤラセ臭プンプンの口コミではなく、信頼できる友人・知人からの生の声です。「スカウト活動は素晴らしい」「自分の子どもを参加させたい活動だ」ということを、機会があるごとにPRください。1人でも仲間が多くなれば、活動はより楽しくなります。

※2016年『お子さまの習い事や地域活動に関するアンケート』／(株)アサツーディ・ケイ